

が起動し、非常用母線が充電されたことを確認する。

- ・ 3号機について、R C I Cを手動起動し、原子炉水位高でトリップしたことを確認する。
- ・ 地震後、当直員の安否確認を行い、地震発生と津波について、ページングで周知を行う。

<5/6号中央制御室>

- ・ 当直長は、自席でパネルを確認しながら、揺れが収まるまで身の安全を確保する。他の運転員も、身をかがめる等身の安全を確保しながら、ラックやパネル表示に注意を払う。揺れが収まった後、ほとんどの警報が鳴り響く中、警報確認を実施。
- ・ ページングとI T Vが使用出来なかったため、PHSにて現場に対して退避を指示。当直員は、控え室に集まってから、中央制御室に戻ってきた。

### **○「3/11 15:42 全交流電源喪失の判断・通報」以降の活動内容**

【1/2号中央制御室の状況】

- ・ 全交流電源喪失に伴い、照明、表示灯が徐々に消えていく中、警報音もなくなり、中央制御室1号側照明は非常灯のみ、2号側照明は真っ暗となる。当直長の指示に基づき、使用出来る設備、使用できない設備の確認を実施。
- ・ 直流電源で操作可能な設備として、1号機について、I CとH P C Iの状況を確認。I Cは、弁開閉表示が確認できない状態であることを確認。H P C Iについては、制御盤でうっすらと表示灯が点灯していることを確認したが、その後消灯したため、起動不能と判断。2号機について、R C I Cの起動状態が不明となる。
- ・ 15:50頃には、計測用電源が喪失し、原子炉水位が不明となる。
- ・ 中央制御室と発電所緊急時対策本部（以下、「発電所対策本部」）間の通信手段は、PHSは利用出来ず、ホットラインと固定電話のみとなる。

【3/4号中央制御室の状況】

- ・ 全交流電源喪失に伴い、中央制御室の照明は非常灯のみとなる。懐中電灯を用意し、4号機は定検中で全燃料取り出し状態であったため、3号機を中心に、原子炉水位等のパラメータを確認する。
- ・ 全交流電源喪失時のマニュアルに従い、R C I C、H P C Iのバッテリーを出来るだけ長く維持できるよう、必要のない負荷を落とす操作を行う。
- ・ 16:03にR C I Cを手動起動し、中央制御室で吐出圧力や回転数を確認し、運転状況を監視し、H P C Iの起動に備える。

【5/6号中央制御室の状況】

- ・ 津波発生により、5号機の2台と6号機の2台のD Gが同時に停止したのを確認。6号機の運転中の1台のD Gは周波数調整を行い、運転状態を維持。